

青梅線沿線の観光活性化

JR東新会社 古民家ホテルなど

JR東日本は19日、青

梅線沿線の観光を活性化させる新会社を設立すると発表した。地域振興事業を手掛けるさとゆめ（東京・千代田）と共同出資する。周辺の古民家をホテルにしたり、無人駅を観光情報の拠点にしたりして集客力を高め

る。社名は「沿線まるごと」とする予定で、JR東が46・7%、さとゆめが53・3%を出資し、12月に設立する。本社を青梅線沿線自治体である奥多摩町に置く。古民家を宿泊施設にする事業では、2022年

度から沿線の古民家5、8棟をホテルに改修、23年から順次開業する。1日1〜3組が宿泊できるようにし、地元の食材を使った料理などを提供、客単価は1人1泊3万円前後を想定している。無人駅の観光拠点化では、22年春に鳩ノ巣駅を

改修し、観光情報の提供や案内のための人員を配置する。古民家ホテル開業後はチェックインも受け付ける。一連の事業の投資額や目標観光集客数は明らかにしていない。両社は今年2〜4月に既存の沿線の古民家ホテルなどを利用し、集落巡りなども楽しんでもらうツアーの実証実験を行った。ツアーが完売になり利用客の評価も高かったため、事業化を決めた。